

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

新任職員ガイド

～あなたと公民館利用者のためのしあわせ講座～

- 4.5
- 2 トピックス 退任のことば
- 3 視点 歴史を学び後世に受け継ぐ、伝統文化の島づくり
- 3 ひろば 絵本と子ども達からもらうもの
- 6 実践記録シリーズ 「子どもたちによる宇宙芸術祭」
- 7 サークル交流 考える力と次世代の育成を (五泉市) / ストレス解消にはこれが一番 (刈羽村)
- 7 素顔拝見 石上 智子さん (小千谷市) / 荻原 一昭さん (上越市)



夏だ！キャンプだ！！サバイバルだ！！
津南町

表紙解説 今や津南町の夏の恒例行事となったサバイバルキャンプ!!
毎年新しいことにチャレンジしています。ドラム缶風呂は
「ちょ～気持ちいい☆」今年も暑い夏が来るぞ～!!

視点

歴史を学び後世に受け継ぐ、 伝統文化の島づくり



佐渡市公民館長 三國 豊

佐渡市は、平成十六年に十市町村が合併し、一島一市となりましたが、過疎化・高齢化が急速に進み、市の活性化が厳しさを増しています。平成十九年に生涯学習推進計画を策定し、「生涯学習の島五つのアプローチ」を掲げました。その一つに伝統の島づくりがあります。佐渡に残されている有形無形の文化財を守り、後世に受け継ぐ取り組みであります。具体的な事業の一つとして、昨年度二年度を迎えた「生涯学習フェスティバル」があ

ります。①郷土芸能発表②文化講演③人形芝居の三部構成として、島内の生涯学習実践者が一堂に会し、その成果を発表する機会としました。当日は、十一月の連休の最後でもあり入場者を心配しましたが、二百三十名余りと会場は満席となり、主催者として胸をなで下ろしました。特に、中学生の狂言・文弥人形には、観衆を魅了するものがありました。今後も、市民の多様なニーズにこたえる公民館活動を目指したいと考えています。

- ①定年退職
- ②元々技術系専門だった私にとって全く初めての技術系以外の分野でしたが、就任早々、何をどうすれば良いのか分からないまま月報編集委員になり、その中で年間の事業パターン等を少しずつ理解できるようになりました。



前評議員
(前湯沢町公民館長)
田村 久芳

湯沢町職員として最後の2年間は、これまでと違った角度からの大変貴重な体験を沢山させていただき、大きな財産になったと考えております。

- ③合併を選択した市町村、自立の道を選んだ市町村と、選んだ道は違えど公民館活動の基本理念は不変と考えます。

今後は生涯学習の分野の振興が益々重要になってまいります。公民館職員の皆様の更なるご活躍を期待しております。

- ①勲奨退職
- ②2ヶ年在職し、2町2村の新設合併後、4年を過ぎました。とりわけ、行事・講座などへの公民館サポーターズクラブの活躍が一般市民の参画へと波及しており、地域社会の繁りを感じます。



前評議員
(前阿賀町公民館長)
後藤 九一

- ③時代の変化に、地域コミュニティの希薄化が危惧されますが、地域で子どもを支える先人の生き様が脈々と根付いており、唯一の救いとなっています。豊かな自然と歴史、風土、文化など町の宝物が光り輝くよう、公民館活動の活性化を期待いたします。

ひろば

絵本と子ども達かららららもの

村上市公民館運営審議会委員 花野ユキ子

公民館の「絵本の読み聞かせボランティア養成講座」を受講し、読み聞かせのメンバーに加わり三年目を迎えます。

この他に、学童保育所へも読み聞かせに行つてますが、この読み聞かせをすることでのメリットも多く、頭を使う

公民館で月一回、土曜日の午前中一時間を交替で受け持ちますが、対象は幼児から小学生低学年なので、絵本を読むだけでなく、手遊びやゲームなども少し入れながら一時間を楽しめるように計画しています。

適度の緊張感をもつ声を出して読む・多くの子どもと出会える等があります。中でも子ども達と一緒にいる時は、自然と笑顔になつてくることに気付かされ、何よりもこれが一番！と思いつながら続けています。

準備としては、図書館で絵本を選びそれを借りて来て数回読み、読みにくい箇所は繰り返し練習をし、なるべくスムーズに読めるようにしています。また、一緒に担当する人達と絵本が重複したり、内容が片寄つたりしないように打ち合わせをして準備完了となりま



利用者のためのおしあわせ講座～

「習慣」をつけること、悪い「習慣」を続けること。どうせだったら、ポジティブな習慣をつけ、生きてみませんか。そちらのほうがずっと幸せになれるはずですから。

「シミン」の育成をめざして

最終に近づいてきました。公民館は、何を目標しているのでしょうか。よく、公民館は「人づくり」地域づくりの場といわれます。教室や講座を通して「人づくり」。そしてそれらの人が集まり、よい「地域づくり」へとつなげることが公民館の最終目標です。つまり自立した市民づくりが前提です。

ちなみに、「シミン」にはいくつかの種族がいるといわれます。行政がいくら働きかけても何の反応もない「死民」。自分のことばかりを主張する「私民」。そして行政が目指している自立した「市民」。実はこの上に「志民」という素晴らしい人がいるのをご存知ですか。「市民」を育て上げられれば十分。しかし、「志民」を皆さんの公民館で育て上げられるようになれば…。その「志民」が多くいる地域は、きっと素晴らしい地域づくりを行うことになると思います。そのため、みなさん、カソバってください。事業に参加した人全てに「満足度100%」を与えるように。

「カソバ」新人生!

あなた方が一生懸命仕事に励めるよう、先輩方は心から皆さんを応援するはず。いろいろな失敗や経験を重ねてくまじい公民館職員になってください。その期待に応えるために、皆さんもカソバしてください。ちなみに公民館職員の「カソバル」は「頑張る」ではありません。「頑」の意味は、おろか、かたくな、むさぼる、よくぶか…とか、あまりいい意味はありません。それを「張る」のですからなおのことです。それより、「願晴る」にしたほうが良い感じではないでしょうか。願が晴れやかであれば、もっと気持ちよくなりますか。願が晴れやかで幸せではないでしょうか。そして、その笑顔で公民館の利用者に接してください。「願晴る」。そんな気持ちで自分のココロを軽くしたら、みんなが幸せではないでしょうか。

公民館とは何かを問い続ける

「初心を忘れるべからず」といわれます。世阿弥が著した「花鏡」の中で言葉です。人はいつか気持ちか慣れて新鮮な気持ちを失いかちになります。ぜひ、今の初心を忘れないで、「公民館とは何か」「どうすべきか」ということを問い続けてください。最後に、あなたに一言を贈ります。これにより、あなた自身を高め、市民の皆さんに接して下さることを心から期待しています。

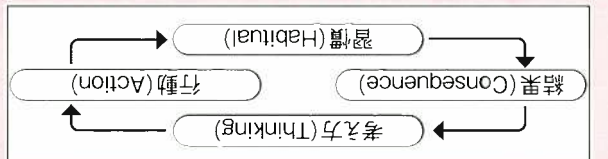
「あなたの能力は、今日のあなたの行動によって開花されることを待っている」

- 1 むり…
- 2 できない…
- 3 わからない…
- 4 めんどくさい…

これを「成功を妨げる4つの言葉」といいます。家庭でも職場でも、新しいことを始めようとするど、ほとんどの人の深層心理の部分で、この4つの言葉が頭をもたげられます。なぜか。今までと同じ事をやっているほうが「楽」だからです。しかし、これをもう少しポジティブな次の言葉に切り替え、行動に移すようにしてみませんか。

- 1 「むり」…、かもしれないけど、ちよとやってみよう
- 2 「できない」…、かもしれないけど、ためししてみよう
- 3 「わからない」…、から、しらべてみよう
- 4 「めんどうくさい」…、けど、少しやってみよう

そうしたとき、その行動を通して自分が少し変われるような気がしてくはず。自分の姿、ちよとやってみようと思えますよ。そうやって行動してみると、きっといい歯車が回りだします。そのいい歯車とは、次の図をご覧ください。



少し前向きな、よい「考え方」を持ち、それをちよとどの「行動」につなげる…。そしてつないだ「行動」を「習慣」にしてみる…。するとそれは必ず「結果」として現れてきます。そしてその「結果」をみれば必ず良くなるはずですから、「考え方」はまた前進していきます。

ちなみにこのサイクル、最近私たちの職場でもよく使われている業務プロセスの仕組み、PDCA (Plan, Do, Check, Act) の形に似ていますよ。

PDCAでは、この「らせんのプロセス」を繰り返すことによって、品質の維持・向上及び継続的な業務改善活動を推進していくこととしています。が、私たちは人間です。私たち人間が私たち自身の品質を高めていくためには、人間の考え方のポジティブ・ネガティブ・サイクルを実行していくべきです。

ちなみに、これはプロセスの思考ばかりではありません。もし、プロセスの「考え方」をもち、プロセスの「行動」をし、それを「習慣」化していくと…。とつともなく悪い結果になるのは間違いないと思いますよ。

「生活習慣」ということかとても大切です。良い「習慣」

特集



前 三条市中央公民館長
(現三条市市民部長)

宗村 里士

ようこそ、公民館へ

突然の質問です。あなたは公民館に異動になって、「うれしい!」「思い通りになった!」と感じている人ですか、それとも「えーっ」、「なんで私が…」と残念がっている人ですか。

どちらの人であっても、公民館で働き始めると、公民館はやがて、これまで自分が思っていた職場や部署とちょっと違うのに氣(註)づくでしょう。

「思い通りになった」と思った人はこれから思い通りにならないことが…。「なんでこんな所…」と思っていた人はその面白さにやがて氣がつくでしょう。それはどうしてでしょうか…。

ほんとうに役に立つものは

その前に、一応、公民館の参考書を紹介しておきます。新潟県公民館連合会発行の「新任職員のための道しるべ」や全国公民館連合会発行の「よくわかる公民館のしごと」は、ずっと解りやすく、丁寧に書かれています。各公民館にきっと備え付けてあるはず。素晴らしい参考書ですので、ぜひ手に取り、仕事の参考にしてください。

この紙面では、枚数上そういった公民館の知識・技術的ガイドは考えていません。むしろ、あなたが「本当に公民館に来てよかった」、「人生の中で素晴らしいところで働けてよかった」と思えるようなガイドを試してみたいと思います。あなたの姿・行動こそが、利用者である市民の皆さんから喜んでもらえ、公民館がよくなるカギだ、と信じているからです。

公民館というところは《出会い、学び、結ぶ》場

公民館はよく、「つどろ、まなぶ、むすぶ」場といわれます(公民館の本来のチャッチフレーズです)。ですが、ここでは公民館が初めてのあなたに、あえて公民館は「出会い、学び、結ぶ」場である、と伝えたいと思います。なぜでしょうか。

あなたが他人の人生を豊かにし、自分の人生を豊かにする

私たち一人ひとり、一生のうち、数々の「出会い」があります。その「出会い」は人生を豊かにしていくためのとても大切なものです。人、モノ、芸術や文学をはじめとした様々な文化や歴史、自然、科学、歴史、哲学、そして仕事…。

数々の出会いの中から自分にとって大切な何かを「発見」し、そしてそのことを「教え」、「学ぶ」ことで、「出会い」は人の一生を豊かにしてくれるのです。

「学び」とは文字通り学ぶこと。そして公民館は、

新任職員ガイド

～あなたと公民館

人と人、地域の団体と団体をつなげる「結ぶ」といった大切な役割を担っています。

出会いと学び、結びは、人生にとってとても大切な出来事です。いずれ追々と解るようになってと思いますが、特に公民館は、学びと出会い、結びの場そのものなのです。

それをあなたが手伝うのです。他人の人生を素晴らしい豊かにする場に、あなたが立ち会ったり、きっかけを作るのです。そんな「神様の仕事」のような職場が市町村役場の中にあるのでしょうか。

そんな素晴らしい仕事に携われる職場に来た、ということが解ったとき、あなた自身、今まで以上に一段レベルアップした人間になれるのです。

でも辛いことや、いやなことだって…

では、異動になって「喜んでる人」はどうでしょう。

実際の話、公民館の仕事は、楽しいことばかりではありません。わずらわしいことや日常の事務に追われたり、利用者や参加者から苦情を言われることもないわけではありません。しかし、困難や面倒くさいことやトラブルが出てきたとき、それは「福の神」が現れたのです。「福の神」が、あなたの人間性や能力をレベルアップさせようと思ひ、仕掛けた「大変さ」なのです。「福の神」は、あなたがそれを乗り越えられと信じているからこそ、あなたにその「大変さ」を授けたのです。

その大変さの中で、愚痴を言わない、不平・不満を口に出さない、ということを実行すれば、あなたは人間的にも、さらに一段とレベルアップした職員になれること間違いありません。

市役所の仕事との違い

市役所の事務は、いろいろな業務・形態のものがあります。が、市民の一人ひとりの方々から直接感謝されることはそんなに多くありません。しかし、公民館では、いい事業(満足される事業)を行ったとき、参加した方々から笑顔や感謝の言葉が返ってきます。市民の皆さんから幸福の言葉をいただき、自分も幸せにさせてもらえます。

公民館の仕事は、基本的に、事業を行う上ではあまり規則にしばられずに行うことができます。もちろん財源や安全上をはじめとした様々な配慮は必要ですし、制約もありますが、自分のアイデアや工夫でかなり自由にできる職場なのです。市民のためになること、自分が理想と思うことは、どんどん企画し、実施していきましょう。

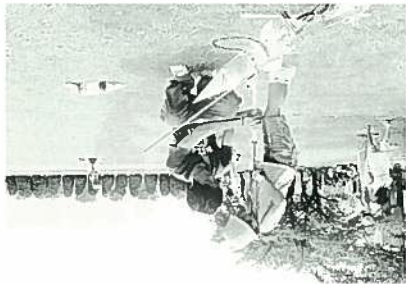
公民館を成功させる魔法の言葉

しかし一方で、どんどんやろうとしたそのときに、自分の中、あるいは同僚の職員の気持ちの中からフツツと湧き出てくる次の4つの言葉があります。それは、

※「註」執筆者の意向によりママ表記させていただきました。(編集者)

「子どもたちによる宇宙芸術祭」

燕市中央公民館 主任 田村 尚子



●「子どもたちによる宇宙芸術祭」の誕生

旧吉田町の宝物である“米納津隕石”(天保8年に落下)をテーマに何かできないか？

町の未来を担う子どもたちと、これを支援する町民のボランティアの皆さんと共に、町民による自主的な活動によるまちづくりを行うことを目的とし、平成12年に誕生しました。

●歩み

毎年、活動のテーマを決め絵画制作や「米納津隕石」をテーマに演劇「米納津隕石物語」を上演したりしました。平成17年には全国組織である「日本宇宙少年団」の新潟県分団を発足しました。毎年、団員を募集し、子どもたちに宇宙・自然・科学などに夢や関心をもち、活動をおして仲間づくりをしながら、健全で豊かな心を育てることを目的として活動を展開しています。平成18年に燕市・分水町・吉田町が合併し「新生燕市誕生」に

より、現在燕市の子どもたちと“リーター”と呼ばれているボランティアと共に活動しています。



●主な活動を紹介

6月…「県立自然科学館見学」

メソは、プラネタリウム観賞です。季節の星空を子どもたちに大変わかりやすい説明付きで投影してくれるので、星空観察にもとんどん興味がわいてきます。

楽しい実験ブースもたくさんあり、1日たっぷり探索・実験して大満足です。

夏休み…「水ロケット製作と打上げ実験」

これが最高に楽しく、毎年恒例に行っている活動です。バットボールで基本ロケットを製作し、市の総合グラウンドで水を入れ、圧を加えて発射させます。飛距離を競ったり、定点にいかにも近く飛ばせるかを競ったりします。いかに速くへ飛ばすためには…とロケットの羽根を工夫したり、発射台に取り付ける角度を考えたり試行錯誤しながら楽しみます。親子で参加してくれる団員も多く、子ども以上に熱中しているお父さんの姿があとこちらで見られます。

●おわりに

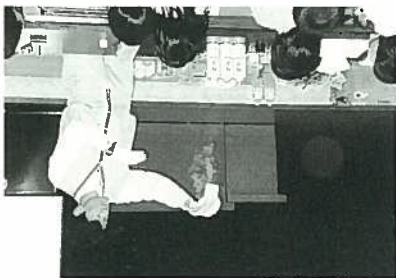
合併を機に団員も旧吉田町だけではなく、燕市の広範囲地区から入団してくるようになってきました。「子どもたちによる…」活動の主体は子どもたちです。活動中の子どもたちの熱心さや笑顔、発せられる声に、周りの大人は一喜一憂しています。活動後に毎回アンケートも記入してもらい、次へつなげる足がかりとしています。今課題なのが、ボランティアスタッフのメンバーのほとんどが多方面でもボランティア的の活動している大変忙しい方ばかり。子どもたちの夢・未来と一緒に支えてくださるスタッフを募集しております。



す。ちよと苦手だった野菜も自分で調理したり、仲間と一緒に食べると「あれっ？おいしいかも…」

2月…「寒い冬に、あったかいクッキンクッキン」この寒い時期のクッキンクッキンも恒例となり、毎回出席の多い活動です。低学年の団員にはリーターや大人が「包丁」の持ち方を教えたり、やってみよう！という気持ちにならなければいけません。調理し

間かれます。理科や科学が好きなようになったのにな〜」という声も



11月…「親子おもしろ科学教室」

考える力と

次世代の育成を

五泉こども囲碁教室

五泉こども囲碁教室は、こども達に囲碁を習得させ、次世代の後継者の育成を目的として、平成十九年二月に発足しました。

囲碁は、こどもからお年寄りまで楽しめる頭のスポーツです。碁を始めたけれど、なんだか難しそうで、果して打てるようになるのかと思ってる方も知れませんが、でもご安心下さい。ご指導に当る先生方が、必ず碁が打てるように懇切丁寧に教えます。碁は頭を使って次に打つ手を考えます。



そこで、自然に考える力や落ちつきが身につく、学校の勉強にも役立つと思います。

最後に、このこども囲碁教室は文化庁の委託事業として行っています。多数のこどもさんがこの教室に入会することを願っております。

日本棋院五泉支部
代表 山内 豊蔵 記



ストレス解消にはこれが一番

カラオケサークル

「ラビカ」の文化ホールの利用率を向上させたいと言うことで、昨年の四月に十二名でカラオケサークルを発足しました。

十一月の文化祭で、カラオ



ケサークルの発表会を、歌手の朝比奈希さんをお迎えして実施しました。また、二月十五日には第一回カラオケ大会をゲスト歌手として、にしきこうじさんをお迎えして盛大に実施することが出来ました。

この模様は、村内ケーブルテレビで放送され多くの村民が見られたようです。練習日は毎月一回ですが、会員も増え、現在は十五名となり練習にも熱が入って来ました。やはりカラオケの好きな皆さんは、歌を歌っている時の笑顔は、とても素敵でした。

刈羽村公民館長
鬼山 正生 記

この春、公民館勤務6年目を迎える萩原さんは、直江津地区公民館の顔のような存在です。公民館に来られる前にも、長年他施設の職員をされていたので、施設管理のベテラン、利用される方へは見た目どおりの優しい対応で、地域の方々にも慕われています。

直江津地区公民館の職員3名のうち、唯一の男性、長身で力持ちということもあり、力仕事は勿論のこと、



上越市立公民館直江津地区公民館
主任 萩原 一昭さん

機械関係や施設修繕など私達はいろいろな面で頼ってしまいます。でも萩原さんは、いつもニコニコすんで働いてくださいます。

これからも萩原さんに支えられながら、私達は、地域の皆さんが気軽に集える公民館として、直江津地区公民館を盛り上げていきたいと思っています。

(上越市立公民館直江津地区公民館
主任 小池 和美 記)

石上さんは、現在小千谷市社会教育課の一員として、小千谷市民会館で働いています。

市民会館の利用者は、高齢者から乳幼児の保護者までさまざまな年齢層の方です。利用者さんに対して、柔らかい物腰でしかも機敏に物事を解決する力は、周りで見ている安心して仕事を任せられます。その原動力は、一昨年産まれたお子さんであることは間違いありません。

時に市民会館の利用者でもあるお子さんは、職場の



小千谷市教育委員会 社会教育課
主事 石上 智子さん

アイドルとして活躍中です。また、職員の中では明るい性格が常に職場を和ませてくれるので、彼女の周囲は毎日笑いが絶えません。現在は、10月に小千谷市で開催される国体バレーボール競技成功に向けても活躍中です。

お互いこれからも楽しく仕事を頑張りましょうね。
(小千谷市教育委員会 社会教育課
安達桂祐 記)

素顔
顔
拝見

